

係活動の手引き

その3 入門期の係活動

1年生の係活動で仕事見つけ

入門期の係活動ということで、1年生ではどういうことに気をつけたらいいのかまとめてみます。

まず、1年生では、1年間かけて子どもたちが「係大好き子」になってくれればいいと思っています。そうするためのポイントは、次の3つです。

*==**==**==**==**==**==**==**==**==**==**==**==**==**==**==**==*

その1 「またやりたいなあ」という仕事を見つけさせる。

その2 「やってよかったなあ」という経験を積ませる。

その3 「またやろう」という意欲をわきたたせる。

*==**==**==**==**==**==**==**==**==**==**==**==**==**==**==**==*

まず、その1「またやりたいなあ」という仕事を見つけさせるために、どういうことに気をつけたらよいかをまとめてみます。

1年生というのは、担任に最も興味を示し、その一挙一動に注目しているといっても過言ではないようです。そこで、その特性を利用して、仕事を見つけさせる指導を行います。

(1) 子どもの前で仕事をする。

1年生を担当すると、いろいろな仕事は山ほどあります。そこで教材研究や学級事務に関わることは除いて、できるだけ子どもがいる時に仕事をするのです。例えば、教室の窓の開け閉め、ノート配り、生きものの世話、花の水かけ、黒板消しなどです。そのうちに必ず子どもの方から声をかけてきます。「先生、手伝おうか？」と。

もし声がかからないようだったら、「あ～たいへん、誰か手伝ってくれないかなあ」などという声を出してみるのも一手です。

(2) 初めの子を大事にする。

最初に声をかけてきた子どもを見逃さないようにします。さっそく係第1号に指定するので。指定するだけではいけません。仕事の名前とその子どもの名前をカードに書いて、掲示板に貼るのです。もう、その子どもは得意満面になるはずですよ。

(3) まず気づいたことを認める。

基本的に係と当番は根本的に違うものです。しかし、この時期の子どもにはそんなことは関係ありません。ただ、先生の手伝いが大っぴらにできることが嬉しいのです。ですから、子どもが見つめてきたものはどんなものでも認めてほしいと思います。決して「それは日直さんにやってもらおうね」などと言わないようにしたいものです。

(4) 消極的な子どもに声をかける。

積極的な子どもというのは、きっかけさえつかめれば、あとは自分からいろんな仕事を探してきます。そこで教師は消極的な子どもに声をかけるべきです。「先生のお手伝いをしてくれるかなあ」などと言いながら近づいてみてください。

1年生の係活動における意欲を高める方法

係活動を始めた1年生の活動意欲を高める手だては次の4つだと考えています。

その1 帰りの会で称賛しましょう

とにかく誉めましょう。認めてあげましょう。そして、誉める、認めるとき、その仕事 みんなの役に立ったことを強調してあげることが大切です。こうやって係活動の意義を少しずつ教えていくのです。

その2 活動が目に見える工夫をしましょう

係の名前を掲示板にはっておくことは前号で述べましたが、それに一工夫こらして、仕事が終われば裏返しにできるようなカード式にしたらどうでしょうか。また、裏を返すと「ごくらうさま」の言葉が書かれてあったりすると、もうバッチリだと思います。

その3 学期の終わりには、ありがとう集会をやりましょう

1学期の終わりには、ぜひとも「ありがとう集会」を開いて、それぞれの係活動のおかげで、学級みんながとても過ごしやすくなったことをしめしてあげましょう。このねぎらいが、次の活動への意欲づけになります。

その4 いろんな仕事を経験させましょう

2学期くらいになると、友達関係も徐々にできる頃でもあるので、思い切って係を交替させてみたらどうでしょうか。1年生の間に、いろいろな仕事を経験させたいものです。

2年生の係活動におけるポイント

2年生の係活動は、中学年への係活動への橋渡しとして重要な位置にあります。そこで、時期をみて、当番との仕事の違いを伝えていくことが大切です。そして少しずつ創意工夫を生かした活動に目を向けさせていきたいと思います。

1年生の段階では、係活動と当番活動との区別が上手くついていない場合が多いです。そこで、2年生の係活動では、1年生の時に経験した係を見直させます。その観点は次の2つと考えています。

☆学級をもっと楽しくできそうなものはどれか。

☆みんなで協力してできそうなものがどれか。

1年生の時、いろいろな活動（仕事）を経験してきた子どもたち。一つ上の学年にあがったということを意識させるために、これまでのことを見直すという作業は、大変重要な意

味があります。

また、この2つの観点から見直すということは、係活動によって「自分たちの力で、自分たちの学級をよりよく、より楽しくすることができる」という自覚をうながすことにつながります。中学年からのギャングエイジ時代に対応できるものになること、まちがいありません。係活動は、子どもたちが自分たちの学級・学校をよりよくするための自発的・自治的な体験活動なのですから。

最近、係の活動がちょっと停滞してきたな…そんな時のポイント

スタート時には意欲的でも、しばらくすると活動が停滞してしまうこともあります。そんな時、次のようなことをやってみませんか？

その1：係活動の報告会をしよう

朝の会や帰りの会を使って、活動の報告会をしてみましょ。事前に予告しておくことが大切です。ポスターにまとめさせておくとよいでしょう。

その2：係活動のふり返りの会をしよう

係ごとに話合いで計画などのふり返りをさせます。がんばりカードへの記入を月に1・2回やるといいですね。

がんばりカード（自己評価カード）

がんばりカード			
ひまえ	よくできた	できた	がんばろう
<input type="checkbox"/> かけのしごとができた			
<input type="checkbox"/> ともだちとなかよくできた			
<input type="checkbox"/>			
せんせいから			

その3：アイデア交換会をしよう

おねがいカードを使って、アイデアの交換会をしてみましょ。「こんな仕事をしてくれるとうれしいな」というお願い形式で行うといいですね。

おねがいカード

おねがいカード	
<input type="text"/>	へ
<input type="text"/>	より

その4：係の発表会をしよう

集会形式で係の発表会をしてみましょ。「係のじまん大会」や「係クイズ大会」などがおもしろいです。